

北海道手をつなぐ育成会 げっぽう

第803号

昭和39年3月13日第三種郵便物認可第10号(毎月1日発行・定価一部10円会費を含む)

●発行日—令和6年12月1日

●発行所—社団法人北海道手をつなぐ育成会

〒060-0002 札幌市中央区

北2条西7丁目かでの2・7(4F)

電話 011-251-0855

FAX 011-251-0804

Eメール doikusei@air.ocn.ne.jp

●発行人—佐藤春光

印刷所 (株)北海道機関紙印刷所

令和6年度 特別研修会開催

11月2日・帯広

「地域の一員として共に暮らす」

～人権・地域・普通の暮らし～

講師 小林 繁市氏 (伊達市手をつなぐ育成会会長)

帯広市グリーンプラザを会場(オンライン併用)として、帯広市手をつなぐ育成会のご協力のもと、今年度の道育成会特別研修会が開催され、会場63名、オンライン18ヶ所・21名、計84名の方が参加しました。



伊達市手をつなぐ育成会会長の小林繁市氏を講師として、「地域の一員として共に暮らす」人権・地域・普通の暮らし」の演題で講演をしていただきました。

「障がい者本人」、「障がい福祉職員」、「障がい者の親」の3つの立場の視点から、障がい者差別と人権擁護、伊達市の「施設を出て、町で暮らす」取り組み、親なき後も障がいのある息子さんが「普通の暮らし」ができるために必要なことを軸にお話をされました。

障がい者としての体験から

自身が差別されてきた経験から、「障

がいがあることは不運だが、恥ずかしいことではない」、「障がいを個性として、ありのままに生きることが必要である」、「心のバリアフリー(障がい者からの解放)が大切である」とのことでした。

施設から町へ

障がいがあっても普通の暮らしを

障がい福祉の仕事に就いた55年前は、本人に自己決定権はなく、「措置」として施設に入所させられていたことや、施設的环境が劣悪であり、職員もそれが当然と考えており、「障がい者の小さな村(コローニー)づくり構想」ははかない幻想に終わったとのこと。その後、伊達市で取り組まれた「施設を出て、町に暮らす」取り組みでは、施設で暮らす本人の「施設を出て、町で、普通に暮らしたい」という想いを実現するよう、就労・生活自立プログラムや支援拠点となる地域生活支援センターの立ち上げ、選択できるようにグループホーム体験を実施して進めて

いったことなどが話されました。地域生活支援の基本は、①一生涯に渡る支援の継続、②意思の尊重と多様なニーズへの対応、③地域資源活用とサービスメニュー開発、④町ぐるみの支援システム構築を上げました。

障がい者が未来を拓く

地域共生社会の実現を

息子さんの生活は、家族内のつながり、障がいのある子の家族との連帯を大切にしてきたと話し、いまの暮らしの質を継続できる「住まいの場づくり」が親としての最後の使命だとの思いを語られました。「仕事に定年はあっても、障がいのある子の親には定年はない」との小林氏の言葉に、「生まれてきてよかった」と本人が思える暮らしの場を地域社会としてつくることを進めていくことが必要だとの思いが伝わってきました。最後に、強い人も弱い人もともに支え合って生きるまちづくりを目指すことが大切であると結びました。



第18回本人の会 全道交流会

ひろげようみんなのわ

in小樽

アニソンライブやおたる潮音頭で

会場がひとつに！

北海道新聞社会福祉基金助成事業として毎年全道各地で開催されている「ひろげようみんなのわ」が10月20日(日)、小樽市いなきたコミュニティセンターで開催されました。

実行委員会を担った小樽、倶知安の本人会をはじめ、遠軽、津別、旭川、白老、札幌など全道各地から、15本人会・事業所の170名(スタッフ・ボランティア含む)の方が集まり交流をしました。会場の体育館は、笑顔にあふれ、楽しい1日となりました。

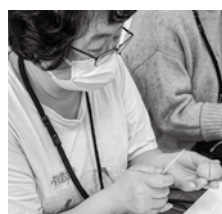
開会式には、小樽市長 迫俊哉様、小樽市社会福祉協議会常務理事 小山秀昭様のご臨席、ご祝辞をいただきました。その後、「和菓子作り」と「ガラス製作」に分かれ、製作活動を体験しました。



開会式であいさつする金子会長

和菓子作り・ガラス細工

小樽の和菓子の老舗、つくし牧田さんのご協力で、



和菓子作り

小樽運がっぱと菊の和菓子を作りました。河童の皿や目、口をつけたり、竹のへらで模様をつけたり、説明を聞きながら柔らかい素材に細工していききました。出来上がった和菓子は、ケースに入れて持ち返りました。



ガラス細工

小樽運河のそばにあるガラス細工のゆず工房さんのご指導で、ガラスのストラップ作りに挑戦しました。小さなガラスの板を半分に割り、細かな色ガラスをのせて好みのデザインで製作しました。出来上がったものは工房で焼き、後日送られてきました。

ゲームコーナー

体育館には、ストラックアウトや射的、魚釣りなどのコーナーが小樽、倶知安の本人会が担当して設置され、大人気でした。成功した人は商品をゲットしていました。



音楽体験

昨年の全道大会チャレンジにも来ていただいた、音楽療法士の近藤ひとみさんのキーボードや鍵盤ハーモニカの伴奏で「手のひらを太陽に」など

のおなじみの歌を歌ったり、手拍子やペットボトルマラカスでリズムをとったりして楽しみました。最後は、太鼓も加わって、大合奏で終わりました。

昼食・名刺交換

昼食は、小樽らしい海鮮丼。「美味しい」と話しながらいただきました。その後は、名刺交換をして他の本人会の仲間と自己紹介をしてつながりを作りました。

アニソンライブ

ジャーニーリーズンと奏味のライブ。「勇気100%」から始まり、アンコールの「学園天国」まで、会場は手拍子と掛け声で盛り上がりました。コスプレをしたメンバーとの記念撮影も大人気でした。

意見交換会・活動体験報告

実行委員の加茂部さんと牧田さんの進行で、本人会の活動報告や、午前中の活動の感想を発表し、交流しました。

音でつながろう！

全道から寄せられた「自分の好きな音と映像」。今年の全道大会開催地函館からのGLAYのライブから始まり、音楽だけではなく、牛の声や花の収穫の音まで、いろいろな音が紹介されました。最後は



来年の全道大会開催地千歳の音楽教室のテーマソング「マツケンサンバ」や「紅蓮華」。千歳本人の会長神田健太さんが来年の本人大会に向けてアピールをしました。

潮音頭

小樽で一番のお祭り、潮まつりで踊る「潮音頭」。実行委員会では練習を重ね、全道の皆さんをリードしました。唄と太鼓に合わせて、みんなが輪になり踊って、フィナーレ。会場がひとつになり、今年の「みんなのわ」を終えました。



閉会式



あつという間の楽しい時間も終わり、閉会式では次期開催地函館いかす会事務局次長の四村真さんが「来年は函館で会いましょう」と呼びかけ、終わりました。

開催準備、運営に当たった、小樽友だちの輪の会、俱知安輝きの会、小樽手をつなぐ育成会の皆様に感謝いたします。

南幌養護学校教育環境改善要望書を道教委に提出

石狩ブロック

南幌養護学校PTAと江別、北広島、千歳、恵庭の各育成会が共同して、教室不足と教育環境悪化が進んでいる南幌養護学校の教育環境の改善を求めて、10月24日に10名で道教育委員会に要望書を提出しました。会員からの南幌養護学校の教育環境改善を求める声を受けて、江別手をつなぐ育成会が学校を7月に視察し、今回の要望書提出となったものです。



10年間で児童生徒数が1・5倍の150名を超え、特別教室の多くが普通教室に転用され、カリキュラムの変更を余儀なくされています。また、女子の更衣場所がトイレの一角をカーテンで仕切っていたり、5年前からプールの故障が放置され、往復40分をかけて町のプールに通っていたり、給食が教員には配食されず、子ども達の食育に影響しています。

今回、次の3項目を要望しました。

- 1 教室不足を解消するための校舎の増築
- 2 屋外プールの早期改修
- 3 学校給食の全教職員への配給をできるよう厨房の改修

板垣結里PTA会長が特別支援教育課中嶋英樹課長に要望書を手渡し、その後、意見交換を行いました。

換を行いました。

参加した4名のPTA会員から「卒業後に作業所に行くことになるのに、作業室がなくなり、作業学習が十分にできない」、「入学して一度も学校のプールに入っていない」、「水の事故を防ぐためにもプール学習は大切」などの実態を伝えました。

道教委からは、「20校130教室が不足している中で、毎年1校ずつ対策をしている。南幌養護についても取り組んでいく」との返答でした。通常学校ではありえない状況に、早急な対応が求められます。

北海道障害児教育フォーラム2025のご案内

道育成会ははじめ、障がい児者親の会各団体が実行委員会に加わっている障害児教育フォーラムが開催されます。

日時 令和7年(2025年)1月25日(土)

9時30分～12時30分

会場 北海道高等学校教職員センター大会議室(札幌市中央区大通西12丁目)

『だれもが自分らしく生きられる社会をめざして』(仮)

講師 松本 哲さん(社会福祉法人みぬま福祉会総務課長)

参加費 一般 1,000円

学生及び当事者 500円

オンラインでの視聴可能

申し込み…Peatixで



知的障がい・発達障がい、ダウン症、てんかんのある方、ご家族に

病気やケガが絶えない…成人病や生活習慣病に備えたい…他人の物を壊してしまった…虐待・雇用現場での差別など人に相談しにくい悩みがある…

障がいのある方とご家族へ

ぜんちの **あんしん保険**
少額短期健康組合保険(特約付) 2019年創設

特別支援教育を必要とされている方へ

ぜんちの **こども傷害保険**
権利保護補償付傷害保険 2019年創設

- ・最高日額1万円
- ・個人賠償責任補償
- ・弁護士費用補償
- ・安心サポート

- ・入院・通院を日額保障
- ・個人賠償責任補償
- ・トラブルに巻き込まれた際、弁護士がサポート

このようなお困り事に心当たりがある方に…

詳しい資料のご請求・お問合せはこちら

ぜんち共済株式会社
関東財務局長(少額短期保険)第14号
〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-5九段北325ビル4階
※ご契約にあたっては必ず「ご契約に際しての重要事項」「約款」東京海上日動の「重要事項説明書」をよくお読みください。ご不明な点等がある場合には、ぜんち共済株式会社までお問い合わせください。
【2020年1月作成 19-T06633】

0120-322-150
平日9時～17時(土・日・祝日・年末年始を除く)
URL: <http://www.z-kyosai.com/>

取扱代理店(資料請求・その他お問い合わせ)

有限会社オフィスブレイン
〒060-0032
北海道札幌市中央区北2条東3丁目2番地 札幌セントラルビル2階
TEL: 011-207-2522 FAX: 011-207-2523

知的障がい児者・自閉症児者の

発達障がい児者の方もご加入いただけるようになりました。

生サポは 家族の安心を支えます

●日常生活に関する相談支援

●就労に関する相談支援

●権利擁護に関する相談支援

の3事業を実施しています。

当会にご入会いただくと、知的障がい児者、自閉症児者のための病気やケガの総合補償制度をご利用いただけます。

生活サポート総合補償制度は…
全国で約15.5万人※のみなさまにご利用いただいている補償制度です。
※2023年11月時点

AIG損保の普通傷害保険
生活サポート総合補償制度

特定障害者福祉団体傷害保険特約、弁護士費用等補償特約、職業従事事故対応費用補償特約、地震・噴火・津波危険補償特約セット

主な補償内容

病気やケガで入院したとき 入院給付金 ケガをしたとき 死亡・後遺障害・入院・通院・手術／各保険金 (地震・噴火・津波によるケガも対象) 病気で死亡したとき 疾病葬祭費用保険金	賠償責任を負ったとき 個人賠償責任補償 虐待・逮捕・勾留に対応するとき 弁護士費用等補償 ※プランによって補償します 就労中に他人にケガをさせたり物を壊してしまったとき 職業従事事故対応費用補償 ※プランによって補償します
---	---

※上記は概要ですので詳細は下記までお問い合わせください。

保険のお問合せはこちら

■担当代理店・扱者

株式会社 ジェイアイシー 北海道支店
〒060-0042 札幌市中央区大通西13丁目4番地102 レジディア大通公園2F
TEL: 011-221-7009 FAX: 011-221-1704
受付時間: 午前9時～午後5時 (土・日・祝日・年末年始を除く)

■引受保険会社

AIG損害保険株式会社
<https://www.aig.co.jp/sonpo>
札幌支店
〒060-0003 札幌市中央区北三条西4-1-1 日本生命札幌ビル17F
TEL: 011-204-7510
受付時間: 午前9時～午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)

ご入会のお問合せはこちら

北海道知的障害児者生活サポート協会
〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2・7 4階
北海道手をつなぐ育成会内
TEL: 011-251-0855 FAX: 011-251-0804
受付時間: 午前9時～午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)

2024年1月現在の内容です。(D-007025 2025-03)

『どんな障がいがあっても、地域で普通に暮らしたい』

障がい者の願いを実現することが事業所協議会の目的です。私たちは、『経営』と『志』の統一を目指しています。体力のある事業所も体力のない事業所も助け合います。あなたの事業所の入会を待っています。

北海道手をつなぐ育成会 事業所協議会

〒060-0002
札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2・7(4F)
電話(011)251-0855/FAX(011)251-0804
E-mail: doikusei@air.ocn.ne.jp

★会員事業所紹介★

社会福祉法人ホープ フロンティア登別

〒059-0463 登別市中登別町88-2
電話・FAX (0143)83-7878
E-mail: happy-job-frontier@bz01.plala.or.jp

☆定員 20名

★主な作業班・内容

- ☆キッチン班
弁当・総菜の調理作業
- ☆作業班
畑仕事、清掃作業、イベント出店準備、その他
- ☆ナチュラル班
施設外就労先のナチュラルサイエンスの敷地整備
- ☆イレнка班
施設外就労先の登別温泉にあるハンバーガーショップ IRENKAでの調理・清掃

どんなに障がいや重度であっても自宅を息を潜めて暮らす障がい者をなくすことを理念に法人は活動しています。